

ILO ツールキット作業指針シート SK100

皮膚や眼に有害な化学物質

一般注意事項

適用範囲

本作業指針シートは ILO 化学物質管理ツールキットの一部で、化学物質から皮膚を守る必要があるときに使用する。本作業指針シートにおいては、有害性グループ S の化学物質が皮膚に触れないようにする方法または触れても最小限に抑える方法に関する注意事項、および適切な個人用保護具の選び方に関する注意事項を示す。

皮膚や眼への接触

有害性グループ S の化学物質とは、皮膚や眼を損傷する物質または皮膚から体内に入ると危険な物質である。また、吸い込んでも問題が発生する場合がある。皮膚や眼への接触は特に注意しなければならないので、100 シリーズ、200 シリーズ、および 300 シリーズの作業指針シート以外に、これらへの注意のために本作業指針シートが必要になる。

有害性グループ S の化学物質がどのようなときに皮膚に付いたり眼に入ったりするかを検討すること。その例を次に示す。

- ・ 浸漬作業などで、皮膚が液体または固体に直接接触するとき
- ・ ふん塵、蒸気、またはミストが発生するとき
- ・ 汚れた表面を触るとき
- ・ 汚れた布切れに触ったり廃棄したりするとき
- ・ 液滴がはねるとき
- ・ 手に付いたとき、体の別の部分を手でこすったりかいたりするとき

対策

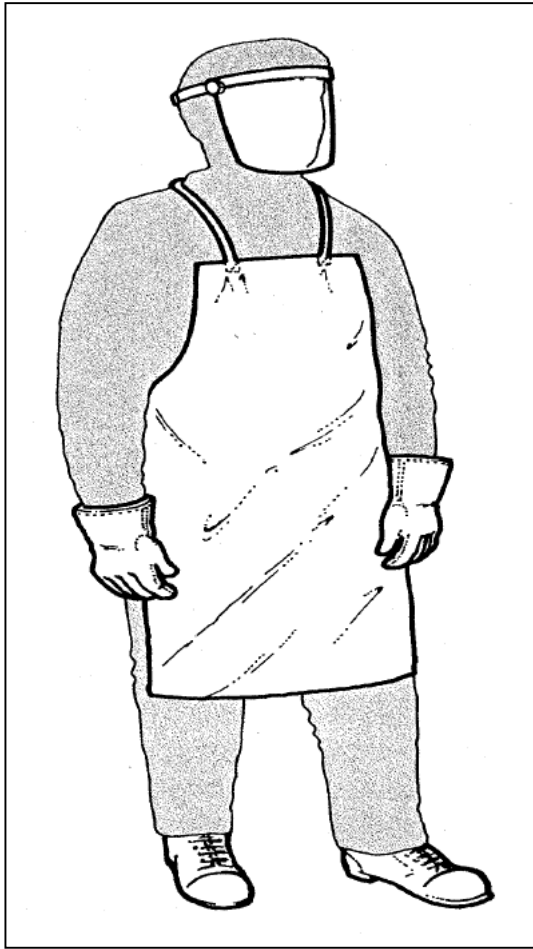
有害性グループ S の化学物質を使用し、皮膚に付いたり眼に入ったりするおそれがある場合は、その化学物質を使わないで済むかまたは有害性グループ S 以外の化学物質に変更ができないか検討すること。ただし、代替品の有害性グループが S より低いことを確認すること。

代替品を使ってもまだ危険性がある場合は、皮膚や眼への接触をできるだけ減らすこと。その例を次に示す。

化学物質を封じ込めることが可能かを検討する。たとえば、管理段階 2 は、管理段階 1 より封じ込め度が高いので化学物質に触れる危険性が減る。

化学物質を扱う作業を減らすようにプロセスが変更できないか、または遠隔操作が使えないか検討する。

清潔な場所と汚れた場所を分離して、間に障壁を作れないか検討する。この方法によれば、汚染の拡散を防ぐことができる。



化学物質保護用手袋
オーバーオール
安全靴
顔面覆いまたは眼の保護具
呼吸用保護具（RPE）

化学物質を取り扱う表面を洗浄しやすく、滑らかか、かつ不浸透性にできないか検討する。上記の検討に基づいてプロセスを変更したら、次に、作業場を定期的に清掃して、こぼれたものの処理に関する厳密な手順を決めることが重要になる。さらに、適切な身体の洗浄設備も必要になる。作業者は、飲食やトイレの前後には、必ず手を洗うこと。

個人用保護具（PPE）

有害性グループSの化学物質に触れることが避けられない場合は、個人用保護具を使用すること。ただし、保護具には次のような制限がある。

保護具の選択を慎重に行うこと（下記参照）。機動性や会話が制限される場合がある。

保護具の有効性は、適切な保守、教育、および作業規範の遵守によって変わる。

他の方法が考えられなかったときの最終手段として保護具を検討すること。

PPEの種類

5種類の保護具を次に列挙する。

通常、保護具の供給業者に適切な保護具の選定を依頼するとよい。すべての保護具が全部の化学物質に対応できる訳ではない。ある時間が経過したときに、保護具から侵入する化学物質もある。保護具の供給業者に、保護具の交換時期も尋ねることが重要である。また、必要に応じて保護具の交換が必要か確認すること。さらに、作業者への教育と指示通り使われていることの確認を忘れないこと。

一般注意事項

使用の前後に、保護具に損傷がないか確認すること。

保護具はすべて定期的に洗浄・保守する必要がある。使い捨ての保護具は1回使用したら、安全な方法で廃棄すること。木綿のオーバーオールは定期的に洗濯すること。洗濯は現場で行うか、専門の洗濯業者に依頼するかする。自宅に持ち帰って、家の洗濯機で洗わない

こと。

保護具は清潔な棚またはロッカに保管すること。清潔な保護具と汚れたものと同じ場所に保管しなはならない。

個人で洗濯する場合には、適切な手順書を作成すること。

化学物質保護用手袋

手袋は、作業中に裂けたり破れたりしない十分な強さが必要である。

革製や編み物の作業手袋は、化学物質を扱うときには不適切である。

作業者は、手袋を置くときまたは外すときに、素手で手袋の汚れた部分に触れないように注意すること。

オーバーオール

液体、粉じん、微粒子などを通さない素材を使っていること。

酸などの腐食性材料を扱う場合は、不浸透性のエプロンを使ってオーバーオールを保護すること。

オーバーオールの裾は、ブーツの中に入れるのではなく外に出すこと。手袋はオーバーオールの袖の外側に装着して、内側が汚れないようする。

安全靴

安全靴は安全のためだけでなく、化学物質から身を守るためにも必要である。つま先が保護され、耐熱機能と金属の靴底を有する安全靴を使うこと。

安全靴が EC 規格に準拠しているか確認すること。液体が足元に溜まる危険がある場合は、ゴム製のブーツを着用すること。

顔面覆いまたは眼の保護具

腐食性の液体が入った蓋のない容器を扱う場合は、顔全体を覆う顔面覆いを着用すること。

呼吸用保護具を使うときは、化学物質の飛散から眼を守るゴーグルのほうか実用的である。

呼吸用保護具 (RPE)

呼吸用保護具は慎重に選ぶこと。詳細は、作業指針シート R100 を参照すること。